

# この秋にインターネット関連の 大きな国際会議が京都で開催されます！

## ～ APNIC 56ミーティング & IGF 2023のご紹介～

2023年9月と10月に、どちらも京都市にある国立京都国際会館で、APNIC 56ミーティングとIGF (Internet Governance Forum) 2023が開催されます。APNICミーティングが日本で開催されるのは8年ぶり、IGFの日本開催は初となります。本稿では、この二つのミーティングについて皆さまにご紹介します。

APNIC 56 2023 9.7<sup>THU</sup>・9.14<sup>THU</sup>

## APNIC 56ミーティングのご紹介

2023年9月7日(木)～14日(木)の日程で、APNIC 56ミーティングが京都府京都市の国立京都国際会館で開催されます。

### APNICミーティングとは

#### APNIC 56ミーティング

<https://conference.apnic.net/56/>



会場となる京都国際会館

アジア太平洋地域でIPアドレス・AS番号の割り当てを管理するAPNIC (Asia-Pacific Network Information Centre) では、1995年1月より定期的にAPNICミーティングを開催しています。

#### APNIC Conferences

<https://www.apnic.net/events/conferences/>



2000年以降は、春と秋の年2回開催となっています。春のAPNICミーティングは、APNOG (The Asia Pacific Network Operators Group) の主催するAPRICOT (Asia Pacific Regional Internet Conference on Operational Technologies) ミーティングと共催で、

秋のAPNICミーティングは単独での開催が通例となっています。APNICでは現在、56の国・経済圏を対象に業務を行っていますが、これらの国・経済圏を、東アジア、オセアニア、南アジア、東南アジアの大きく四つに分けて担当者を配置しているほか、この四つの地域をローテーションする形でAPNICミーティングが開催されています。

#### Asia Pacific Regional Internet Conference on Operational Technologies

<https://apricot.net/>



#### JPNICブログ

「APNICミーティングはどこで開催されるの？」

<https://blog.nic.ad.jp/2021/5846/>



東アジア地域に区分される日本では、2015年春に福岡県博多市で開催されたAPRICOT 2015/APNIC 39ミーティング以来、およそ8年ぶりの開催となります。また、秋のAPNICミーティング開催としては、2002年9月に福岡県北九州市で開催されたAPNIC 14ミーティング以来、21年ぶりの開催となります。JPNICは今回のAPNIC 56ミーティングのローカルホストとして、ミーティングの開催に協力しています。

### APNICミーティングの構成

APNICミーティングでは、会期の前半をワークショップ、後半をカンファレンスとしてさまざまなプログラムを開催しています。ワークショップでは、DDoS (Distributed Denial of Service) 対策、SD-WAN (Software Defined-Wide Area Network) やその時々々の先端技術の活用、ネットワーク運用者であれば利用することの多いPeering DBの活用といった内容が取り上げられています。インターネットの発展著しい国・経済圏からの参加者を中心に、活発な議論が繰り広げられます。カンファレンス期間中には、APNICの主な業務であるIPアドレス・AS番号の分配ルール(ポリシー)についての議論が行われるほ

か、APNICの活動報告や関連コミュニティからの報告を行う総会、ネットワーク運用に関するセッション、アジア太平洋地域内のネットワークオペレーターズグループ(NOG; Network Operators Group)の活動紹介、特定の話題に関心を持つ参加者が非公式に集まって議論するBoF (Birds of a Feather)等のプログラムが設けられています。

#### Peering DB

<https://www.peeringdb.com/>



会期中最も参加者が集まるOpening Plenaryの様様

APNICのホームページでは、今回およびこれまでに開催されたAPNICミーティングのプログラムや発表資料が公開されます。また、議論の様子を撮影した写真や動画、発言録も公開されています。今回のミーティングの参加前にぜひ一度ご覧ください。ミーティングに参加されない方にとっても、有用な情報が盛りだくさんにあると思います。

## ミーティングでの議論の変化

ここからは、2002年9月に開催されたAPNIC 14ミーティングと、2023年3月に開催されたAPNIC 55ミーティングでの議論をご紹介します。およそ20年の間に、話題が変わってきているでしょうか。

### ▶ IPアドレス・AS番号の分配ルールについての議論

#### APNICによるポリシーSIGの紹介ページ

<https://www.apnic.net/community/policy/policy-sig/>



カンファレンス期間中に開催されるIPアドレス・AS番号の分配ルール(ポリシー)についての議論は、「オープンポリシーミーティング」のセッションで行われます。以前はSIG (Special Interest Group) という特定のテーマについて議論するセッションで開催されており、ポリシーSIGという名前と呼ばれていたこともありましたが。

APNIC 14ミーティングの際には、筆者はまだJPNICには在籍していませんでしたが、「ポリシーSIG」のセッションで以下のような議論が行われていたようです。

- ・IXPやルートネームサーバ等へのIPv4アドレス/IPv6アドレスの割り当てサイズについて

- ・AS番号割り当てポリシーの改定 (IPアドレスポリシーとの分離)
- ・ローカルインターネットレジストリ (LIR; Local Internet Registry) からISPへの割り当て方法について

一方、APNIC 55ミーティングでは、「オープンポリシーミーティング」のセッションにおいて、以下のような点について議論が行われました。

- ・歴史的PIアドレスの管理方法について
- ・/21未満のIPv4ホルダーへの最大割り振りサイズ変更について
- ・プライベート・予約済み・未割り当てAS番号へのROA/WHOISオブジェクトの登録禁止について
- ・非階層型as-setオブジェクトの利用制限について

APNIC 14ミーティングでの提案内容では、割り当てサイズや方法といったIPアドレス・AS番号管理の基本的な内容にフォーカスしたものとなっていたようです。その一方で、APNIC 55ミーティングでの提案は、インターネットの安定やネットワークの高度な運用をめざしたものになっているようにも思えました。いずれのミーティングも、困っていることがあり、課題の解決をめざして議論を行っていました。

2011年のIPv4アドレスの通常在庫枯渇から10年以上が過ぎた現在においても、IPv4アドレスの分配ルールについての議論が活発に行われています。1組織あたりに分配するIPv4アドレスサイズを増やす提案が主流を占めていますが、サイズを減らして現在分配中の最終在庫の枯渇時期を遅らせることを目的とした提案もあり、この先の議論の流れは不透明なものとなっています。皆さまも関心のある内容かと思しますので、今回のAPNIC 56ミーティングの「オープンポリシーミーティング」のセッションに注目いただければと思います。

### ▶ ルーティングについての議論

#### APNICによるルーティングセキュリティSIGの紹介ページ

<https://www.apnic.net/community/participate/sigs/routing-security-sig/>



ルーティングに関する内容は、APNIC 14ミーティングでは「ルーティングSIG」において、ISPにおけるベストプラクティスについての議論が行われていました。ISP内部のルーティングにおける課題を、どのように解決していくかについて紹介が行われていたようです。

一方、APNIC 55ミーティングでは、「ルーティングセキュリティSIG」において、ルーティング関連の話題が取り上げられています。ROA (Route Origin Authorization) の管理方法の実例紹介、スプーフィング攻撃への対応方法等が紹介されていました。以前のミーティングでは、経路情報が乗っ取りから回復するまでの経過を解説した発表がありました。いずれの話題も、参加者にとってすぐに役立つ内容となっていたようです。

どちらのミーティングでの議論も、すべてのネットワークにおいても対応が必要な内容であることに変わりはありませんでした。ネットワーク運用における最新動向をキャッチアップする場として、活用されているのかもしれないですね。

## ▶ 国別インターネットレジストリ (NIR) についての議論

APNICによるNIR SIGの紹介ページ

<https://www.apnic.net/community/participate/sigs/nir-sig/>

APNIC地域には、国内の組織へIPアドレス・AS番号の分配を担当する国別インターネットレジストリ (NIR; National Internet Registry) があります。NIRは、他の地域インターネットレジストリ (RIR; Regional Internet Registry) にはほぼ見られない、特徴的な存在となっています。NIRは現在、日本 (JPNIC) のほか中国、韓国、台湾、インドネシア、ベトナム、インドに設置されています。

APNIC 14ミーティングでは「NIR Meeting」というセッションで、APNICからの情報提供が主な内容だったようです。現在のAPNICミーティングでは、NIRのそれぞれどのような活動を行っているかを共有するセッションとして「NIR SIG」が設けられています。

各NIRの担当者は、このプログラムで各国におけるインターネットの状況まで踏み込んで紹介するケースもあります。最近のAPNICミーティングでは、IPv6やRPKI (Public-Key Infrastructure) の普及状況について積極的に情報共有が行われています。APNICからも国別の情報提供が行われる場合がありますが、統計情報の紹介が中心となっているため、NIR担当者による生の声が聞ける貴重な機会となっています。NIRが設置されている国の状況に関心がある方は、セッションに参加してみたいかがでしょうか。



NIR SIGでのパネルディスカッションの様相

## おわりに

APNICミーティングと聞くと、IPアドレス・AS番号の分配ルールに関する議論だけが行われていると思う方も多いかもかもしれません。しかし今回ご紹介したように、分配を受けたIPアドレス・AS番号の運用に関する議論・情報共有も積極的に行われています。今回の記事の内容に興味を持たれた方は、参加をご検討いただければと思います。JPNICでは、日本におけるIPアドレスおよびAS番号の管理に関するポリシーを検討・調整役を担うJPOPF運営チームと協調して、「APNIC 56に向けた意見交換ミーティング(仮称)」の開催を予定しています。こちらは日本語で参加できますので、APNIC 56ミーティング参加前の事前学習の機会として利用をご検討いただければと思います。

JPOPF運営チーム

<https://www.jpopf.net/JPOPF-ST>

公共建築百選にも選ばれていて、台形と逆台形を組み合わせた独特の形状です



広い敷地内には立派な日本庭園があります



IGF 2023 2023.10.8 SUN - 10.12 THU

## IGF京都会合の全体テーマと会合に向けた準備状況

インターネットガバナンスフォーラム (IGF) 2023年会合は、2020年に日本がホスト国となることが決定し、2023年10月8日 (日) から12日 (木) まで、京都市の国立京都国際会館を会場に開催されます<sup>\*1</sup>。日本でのIGFは初開催、アジア太平洋地域での開催も2013年パリ会合が直近ですので、実に10年ぶりです。JPNICニュースレターの前号、83号では特集3として、国内IGF活動の状況、日本IGFタスク

フォースによる準備状況などをお伝えしました。今号では、プログラム編成を中心とした会合準備の進展を中心にお伝えします。

全体テーマ「我々が求めるインターネット  
-すべての人々に力を授ける」

IGF会合のプログラム編成は、国際連合社会経済局に設置されたIGF事務局の取り回しのもと、5地域、4ステークホルダーセグメント(政府、市民社会、ビジネスセクター、技術コミュニティ)からそれぞれ2名を基調に委員を選出して構成される、マルチステークホルダー諮問委員会(Multistakeholder Advisory Group; MAG)によって進められます。IGF2023のMAGメンバーは、2022年12月2日に発表されました。日本からは、アジア太平洋地域・ビジネスセクター枠選出の河内淳子さん(国際経済連携推進センター(CFIEC))が昨年のIGF2022に引き続き、また、ホスト国代表として、総務省国際戦略局の飯田陽一さんの2名がご参画になっています。IGF2023に向けたMAGの初会合は、2023年3月8日から10日にかけて、オーストリア・ウィーンの国際連合事務局オフィスで開催されました※2。

この3月のMAG初回会合では、全体テーマ(overarching theme)とサブテーマが決められました。全体テーマは"The Internet We Want - Empowering All People"「我々が求めるインターネット - すべての人々に力を授ける」となりました。望まない被害や悪影響を最小限に食い止め、人々の能力が最大限に活かされるインターネット、といった望みが感じられます。サブテーマは昨年のIGF2022の五つから増えて、八つとなりました。以下に、IGF2023のサブテーマを示します※3。

- AI & Emerging Technologies (AIと新技術)
- Avoiding Internet Fragmentation (インターネット分断を食い止める)
- Cybersecurity, Cybercrime & Online Safety (サイバーセキュリティ、サイバー犯罪とオンライン安全性)
- Data Governance & Trust (データガバナンスとトラスト)
- Digital Divides & Inclusion (デジタルデバインド・デジタル包摂)
- Global Digital Governance & Cooperation (グローバルデジタルガバナンスと協調)
- Human Rights & Freedoms (人権と自由)
- Sustainability & Environment (持続性と環境)

これ以外に、3月のMAG会合ではセッション提案募集要領が確定し、4月1日から5月24日までの間、セッション提案が募集されました。

## IGF京都に向けた日本での準備

この間、日本ではIGF2023を盛り上げるために、いくつかのイベントが開催されています。2023年4月14日には、一般社団法人IT団体連盟、一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)、一般社団法人日本ユニファイド通信事業者協会(JUSA)、京都情報大学院大学が共催で「IGF参加に向けた学生向けフォーラム」を開催※4。学生を中心として、IGFがどんなものであるか、IGF2022参加者からの、セッション内容や会場の様子

の紹介などを行いました。

同4月27日には、IGF2023への参加だけでなく、日本からより多くのセッションが提案されるようにと、日本IGFタスクフォースとインターネットソサエティ日本支部(ISOC-JP)が共催で「IGF2023に向けたセッション提案チュートリアル」※5を開催。ISOC-JPオフィサーの小林茉莉子さんをはじめ、セッション提案経験のある方々から、提案に関心のある方々に、提案の書き方や注意点などが提示されました。

また、同4月29日と30日に群馬県高崎市で行われたG7デジタル・技術大臣会合※6においては、そのサイドイベントとして「パネルディスカッション- Toward IGF2023 at Kyoto」※7が開催されました。IGF2023に向けた国内IGF活動活性化チームチェアに加藤幹之氏がモデレーターを務め、国連IGF事務局長のチェンゲタイ・マサゴ氏、日本IGFタスクフォース会長の村井純氏、元IGF MAG議長のリン・センタモール氏(遠隔参加)というパネリストで、IGF2023に向けた期待を語り合いました。また、ピント・サーフ氏がIGFリーダーシップパネル議長としてビデオメッセージを寄せて、IGF発足当初から20年近く経ち、大きく進化したインターネットにおける、マルチステークホルダーにおける対話の重要性を強調しました。

## 日本人関与のセッションも多数

日本IGFタスクフォースは、IGF2023における日本人の関与を増大するために、前述のチュートリアル開催とともに、提案促進活動を進めていました。2023年5月24日にセッション提案が締め切られた後、提案されたセッションはすべてIGF Webで公開され、※8日本人が提案者グループに含まれる提案が20以上確認できます。7月10日から12日まで開催された第2回MAG会合※9のワークショップで採否が検討された結果、400ほどの提案から、5分の1ほどの80セッションが採用となりました※10が、その中には日本人提案のものが9件、それ以外にも日本人が発表者に含まれるものが15件と、多数に上りました。それ以外のセッションの採否は執筆時点で明らかでないものの、今までのIGFよりも多くの日本人を壇上で目にするようになるはずで

## 既に参加登録の受付開始

ぜひ世界最大のインターネットの祭典を体験してください。既にIGFへの参加登録が、IGF Webページで始まっています。※11 IGFには、さまざまな人種、文化、服装の方々が多数集いますので、会場にただで実に華やか、会議室の中はそれぞれに活発な議論が10以上の会議室において同時進行で展開されます。ぜひ参加して、世界最大のインターネットの祭典を体験してください。日本IGFタスクフォースやJPNICでは、引き続きIGF2023に向けた情報提供を進めてまいります。皆さん10月8日から12日、京都国際会館でお会いしましょう!

※1 [https://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin06\\_02000261.html](https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin06_02000261.html)

※2 <https://intgovforum.org/en/content/igf-2023-first-open-consultations-and-mag-meeting-agenda>

※3 <https://www.intgovforum.org/en/content/igf-2023>

※4 <https://www.jusa.jp/igf>

※5 <https://igf2023taskforce.jp/index.php/igf2023-session-proposal-tutorial-materials>

※6 [https://www.soumu.go.jp/joho\\_kokusai/g7digital-tech-2023/](https://www.soumu.go.jp/joho_kokusai/g7digital-tech-2023/)

※7 <https://japanigf.jp/topics/toward-igf2023-kyoto>

※8 <https://www.intgovforum.org/en/content/igf-2023-session-proposals>

※9 <https://www.intgovforum.org/en/content/igf-2023-second-open-consultations-and-mag-meeting>

※10 <https://www.intgovforum.org/en/content/igf-2023-workshops>

※11 <https://indico.un.org/event/1006568/>